

## 雇用関係は元々労働者不利の「自己責任」という世界

### 間接的な「強制労働」を無くすために、どうする？

#### 「人々働く者」の値打ちを底支えするものとしての生活保護

人は結局、身勝手なものですから、原発事故処理を進めるために、高濃度汚染の部屋に排気ダクト配管作業で入る人々を、「ようやった」と応援します。

事故原発敷地内でがれき撤去作業する人についても、「大変だろうな、でも、頑張つてね」と応援します。応援できるのは、私が、そこで働くことになる可能性がほとんどゼロだからです。

その人達のおびる放射線量の管理や量について、どう管理されているのか、将来にわたつての定期的な健康診断は保証されているかなどについては、あまり、注意を払っていません。

もし、作業が滞つて、放射能物質が大噴出する事態になれば、今、安全圏にいる私にも、危険が及びます。だから、作業している人々の身に及ぶ危険には目をつぶり、声だけの応援になります。

事故を起こした原発の敷地内やその周辺では、今日も数百人の人が働いているそうです。それらの人中には、もともと原発関連で働いていた人もいます。ようし、新規の求人でも働くようになった人もいます。しよう。

日本では、法や権力による強制労働はないことになっていきます。しかし、自衛官や消防隊委員・警官などは、志願で募つたといつても、全くの自由選択というわけではなかったでしょう。

原発関連でこれまで働いていた人も、将来の生活などを考えると、完全な自由選択とはいえないと思われまふ。仕事のない釜から北陸に仕事に行つて、気がついたら原発敷地内でダンプを運転していたというの、経済的要因が働いた半強制労働といえるかも知れません。

「私」の安全のために、それらの仕事をする人々は必要です。危険の分担ができなければ、費用を分担する必要があると。危険を少しでも少なくするための配慮や長期的な健康管理のためにいくらか費用がかかっても、みんなが負担することが必要です。今、そうなつていないのは、人の値打ちが低いからです。

経済的要因での半強制労働を無くすためには、失業者が生活保護制度を活用して、人の値打ちを底上げする必要があります。生活の保障がない社会には、職業を選ぶ自由もありません。危険を承知で選ぶ自由も！

## 求人と違い「福島原発で作業」 大阪・西成の労働者

日雇い労働者が多く集まる大阪市西成区のあいりん地区で、東日本大震災後、宮城県で運転手として働く条件の求人に応募した男性労働者から「福島第1原発で働かされた。話が違う」と財団法人「西成労働福祉センター」に相談が寄せられていたことが8日、関係者への取材で分かった。

センターは求人を出した業者側の調査に乗り出し、大阪労働局も事実関係の確認を始めた。支援団体は「立場の弱い日雇い労働者をだまして危険な場所に送り込む行為で、許されない」と反発している。

関係者によると、センターが3月17日ごろ、業者からの依頼をもとに「宮城県女川町、10トンダンプ運転手、日当1万2千円、30日間」との求人情報を掲示。応募して採用された男性は東北に向かった。

ところが雇用期間中の3月25日ごろ、男性からセンターに「福島第1原発付近で、防護服を身に着けがれきの撤去作業をしている。求人は宮城だったのにどうなっているんだ」と電話があった。

これを受け、センターが雇用終了後に男性や業者側に聞き取りをしたところ、男性が一定期間、防護服を着て同原発の敷地内での作業に従事していたことが判明した。

東京電力によると、原発敷地内では同社の社員以外に協力会社の労働者ががれき撤去や電線敷設などの作業をするケースがあるというが、センターは「男性の詳細な作業内容はつかめておらず、さらに聞き取りを進める」としている。

労働者らを支援するNPO法人釜ヶ崎支援機構は「初めから原発と言ったら来ないので、うそをついて連れて行ったともとられかねない。満足な保障もない労働者を使い捨てるようなまねはしないでほしい」と話した。

あいりん地区は日雇い労働者が仕事を求めて集まる「寄せ場」としては国内最大とされる。同センターは大阪府が官民一体で労働者の職業の確保などを行う団体。【共同通信】2011/05/08 23:28

### 「嘘と強制労働は、許せない」・・・これは常に正しい

日本は、民主主義の国ですから、「強制労働」は許されませんし、就労場所について、嘘をいうことも許されません。原発事故をなんとか押さえ込むために、今も、敷地内やその周辺で、多くの人が働いているし、今後も働く人は必要です。と、騙しや使い捨ては許されません。

危険性については、十分説明される必要があります。特に、放射能のことですから、個人個人が受ける線量の管理や将来にわたっての健康管理のシステムが形成されている必要があります。それらの対策があって、なお、自分で得心した人が、仕事に行くようにすべきです。事故原発の敷地内作業は、無人化が進められているようですが、少しでも早くとなると人力に頼ることになります。「風評被害」的に、福島・宮城では働かないということにならないような対応策が必要だと思います。